

平成 26 年度 文学部プロジェクト研究 研究活動報告書

	職名	准教授	氏名(代表者)	本村 昌文	配分額	800,000 円
プロジェクト名	〈介護者〉の人生に即した介護と看取りの分野横断的研究					
目的と活動の概要	<p>[研究の目的] 本研究プロジェクト(以下、ケアラー研と略す)は、〈介護者〉(有償、無償を問わず、ケアに従事する人を広く指す)が直面する問題を通して、現代日本の介護と看取りの抱える根源的な課題を明らかにし、その解決策を分野横断的に探求することを目的とする。具体的には、これまでの研究において脇役的位置にあった〈介護者〉を主役に位置づけ、その人生の各ステージ①要介護者をケアしはじめる段階、②〈介護者〉としてのケア従事期、③要介護者の終末期・看取りの時期、④看取りの後—について、異分野の協働により多角的に分析し、〈介護者〉の視線に基づいた介護・看取りを支える仕組みを検討する。</p> <p>[活動の概要] ①2014年11月8日(土) ケアラー研/研究会(場所:西川アゴラ) ②2015年1月10日(土)11:00~17:00 科研費基盤研究B「ケアの現場と人文学研究との協働による新たな〈老年学〉の構築」・ケアラー研共同研究会(場所:岡山大学文学部会議室) ③2015年1月31日(土)13:30~17:00 タナトロジー研究会&ケアラー研共催シンポジウム《これからの看取りの姿—在宅か病院かの選択を乗り越える》(場所:岡山大学文学部会議室) 報告者:長谷川亜紀(岡山赤十字病院 緩和ケア認定看護師)、信正早苗(医療法人かとう内科並木通り診療所 病棟看護主任)、討論コメンテーター:河原正典(医療法人社団爽秋会岡部医院) ④2015年3月3日(火)13:30~17:00 講演会&座談会(場所:岡山大学付属図書館中央図書館・ラーニングcommons) 講演:春日キスヨ「男性介護者問題」と介護家族支援—高齢者虐待問題との関連で— 座談会—ケアラーたちの現在—話題提供者:北村吉次(男性介護者支援ネットワークひょうご副代表)、持田恭子(ケアラー・アクション・ネットワーク代表)、岩月万季代(NPO 法人てとりん代表)</p> <p>[成果と今後の展望] * 研究発表 ・金子真「医療の現場でのコミュニケーション」(研究会、2014年11月) ・高谷幸「介護分野における移住労働者について」(研究会、2014年11月) ・大浦まり子「がん医療における意思決定におけるアドバンス・ケア・プランニング」(研究会、2014年11月) ・中谷文美「オランダにおける高齢者ケアの特徴とその文化的背景をめぐって」(共同研究会、2015年1月) ・生田由加利「男性介護者—認知症を持つ女性要介護高齢者との2人暮らしを維持するための構成要素」(共同研究会、2015年1月) ・本村昌文「介護・看取り・近世の死生観」(日本文芸研究会第66回研究発表大会、2014年6月) ・本村昌文「『〈介護者〉の人生』を視座とした近世日本思想史研究」(研究会、2014年11月) * 外部資金の獲得など ・科研費・基盤研究B「ケアの現場と人文学研究との協働による新たな〈老年学〉の構築」(平成26年7月) * 今後の展望 ・獲得した科研費・基盤研究Bと連携し、より大きな外部資金獲得を目指す。平成27年度・28年度にシンポジウムやセミナーを集中的に開催し、その成果を論文集として刊行する。</p>					
関係教員等 (代表者※印)	氏名	所属	職名	役割	分担	
	本村 昌文(※)	文学部(哲学芸術学)	准教授	研究の統括、日本思想史		
	金子 真	文学部(言語科学)	准教授	言語学		
	高谷 幸	文学部(行動科学)	准教授	社会学		
	中谷 文美	文学部(行動科学)	教授	文化人類学		
	吉谷 啓次	文学部(哲学芸術学)	准教授	現代哲学		
	【文学部外分担者】					
	生田 由加利	医学部保健学科	助教	老年看護学		
	大浦 まり子	医学部保健学科	助教	がん看護学		
	斉藤 弥生	大阪大学人間科学部	教授	介護福祉学		
	日笠 晴香	日本学術振興会	特別研究員	生命倫理学		
	諸岡 了介	島根大学教育学部	准教授	宗教学		
	吉葉 恭行	秋田工業高等専門学校	教授	科学史・技術史		

